

上、一つ一つの質問に丁寧に応じてくださったあの優しい目は今でも忘れられない。

その後私は、先生のお誘いを受けて幼児教育科のスタッフとして十文字短大に赴任した。そこで先生の管理者としての一面を見て、先生は管理者としての優秀さと、詩人としての優しさの両面を兼ね備えた稀なる存在であることを知った。ある時、私は無駄にも「先生の詩人の心はお嬢さんの影響が大きいです」と言いました。その言葉に先生は大きく

うなずいてくださった。

先生は私たちに子どもから学ぶことの大切さを伝えてくださったが、先生もまたご自分のお子様から、沢山の貴重な贈り物を受けられて、日本の教育界に大きな業績を残され、その九十一年の生涯を静かに閉じられたということが出来よう。ペンを置くに当たって先生のご冥福を心からお祈り申し上げたい。

(十文字学園女子短期大学)

## 思い出のひとこま

村田 修子

どんな人としても、必ずお別れするときがあることは知っているけれど、それを実感として受けとることはまずない。坂元先生にも何となく、いつでもお目に掛かれるような甘えた気持ちが自分のどこかにあった様に思う。

奥様が亡くなられてから、お邪魔してよいのかどうかを思い、以後はお目に掛かる機会を失ってしまったことをお詫びしたい気持ちでいっぱいである。「心から御冥福をお祈り致します」。

考えてみると、先生との触れ合いには何段階かがあったように思う。

まず、「文部省初等教育課長」になられたというときを機会に、お茶大附属稚園に多くの方々に囲まれた形で倉橋先生を尋ねてこられた。そのときは体を固くしてお迎えしたり、講演を壇の下でうかがうという触れ合い方に始まった。そこでは堂々となさった風格で、たいらに言えば、ご立派で周りが安心していられる雰囲気を漂わせていらっしやう。

けれど、少し近より難いお役人風な感じも受けていた。

次に、お茶大の教授兼附属小学校の校長になられたので、以前よりはやわらかい空気のもとに接することができるようになった。特に幼児のことをよくご存知の先生には、幼・小の連絡については心温まる扱いをして頂き本当に有難く思ったものである。

その次には、附属幼稚園長を兼ねて頂いたのでお話をうかがうことも多くなり、先生が身近に感じられてきた。時折りは職員旅行にご一緒し、教育以外のことごとにも広い知識経験を持たれておられることに敬服もした。といっても時折りは反発し合ったこともある。けれど先生はなかなか負けては下さりなかった。

その後、坂元先生の前附属幼稚園長及川ふみ先生、二月二十五日九十六歳で亡くなられた内田安久先生のあとを受けて、洗足学園短大の幼児教育科長になられ、大変家庭的な感じのするなごやかな科風

を作ることに尽力して下さった。

洗足学園で再び一緒することになったが、出勤日の関係で普段はなかなかお目に掛かる機会はなかった。時折り、帰りは同じ方向のため私の車に乗って下さって、お話ししながら混雑の道を退屈しないで帰ることができた。また時折りお尋ねし、奥様を交えて肩のこらないお話をよくした。特に卒園生の世界的なピアニスト内田光子さんの活躍振りの話のときは、目を輝かせておられたことが印象的であった。

二年ほど前の或るとき、お訪ねして玄関を開けたとき、沓脱ぎ石の上いつもの皮靴とはちがった白い運動靴が一足だけのっていた。そのときは「アップ」と思うと同時に胸が熱くなり、知らない間に涙がこぼれてしまった。先生は敏感な方、私のそれを思われたかどうか確かではないが、「この頃はあれを履いて散歩をするんだよ」とすぐおっしゃった。何気ない風だったが、この靴の印象は私にはとても

厳しかった。

二月四日（土）久し振りに車で洗足学園に行った帰り環状七号線を通った。「お近くにきたからお寄りしようかしら」とふと思っただけれど、余り急なことなので今日はやめて次の機会にしようと思って環七を下りて家の方へ向かった。

先生は丁度その頃亡くなられた、とあとでうかがった。

先生いろいろ有難うございました。やさしかった奥様と天国でお幸せにお過ごし下さい。

（洗足学園短期大学）

